

第2回 函館市観光アドバイザー会議 会議録

- 1 日 時 平成17年11月21日(月) 18:00~20:00
- 2 場 所 庁舎 4階 会議室
- 3 参集者 ・別紙出席者名簿のとおり
・報道機関(函新, 読売)
・傍聴者(大塚一美《富岡町 1-40-22,41-6904》)

4 内 容

(1) 開 会

(2) 座長挨拶

- ・ 本日は2回ずつ開催された各部会の討議内容を発表していただき, 全体会議として, 現段階での中間とりまとめ的な意味合いで, 確認をしておきたい。
- ・ また, 市役所の新年度の予算要求の時期となるとのことです。我々が現在, 中身の検討をしている施策の実施に向け, 予算措置が必要なものについて「意見書」という形で市長に提出したいと考えておりますので, 後ほどお諮りをしたいと思います。

(3) 部会報告

第一部会報告(星野部会長)・・・資料1参照

討 議

【湯の川温泉活性化】

鎌鹿委員

- ・ 護岸整備に関しては, 景観を損なわない仕方が必要である。
- ・ 散策路については, 松倉側に沿って松聖橋までサイクリングロードが整備されており, そこに接続できれば延長が可能である。
- ・ 草刈りについては, 行政の予算不足でその回数が減る状態にあるが, 全くしないのは責任放棄だと思う。NPOやボランティア団体などは行政の隙間を埋める程度が限界だと思う。

【コンベンション関連】

鎌鹿委員

- ・コンベンションのニーズはあるのだろうか？また，宿泊のキャパはあるのだろうか？

星野部会長

- ・部会でも話題に上ったが，例えば旭川は大きなホールがあるが，宿泊施設は層雲峡など周辺に行かねばならない。その点，函館は湯の川など宿泊施設のキャパはあるほうだと思う。
- ・ただ，団体客等で満室になるケースがあるので，マネジメントすることが必要となる。

土田委員

- ・コンベンションホールのニーズはかなりあると思うし，宿泊のキャパは道内で札幌に次ぐ数を持っている。
- ・大きな大会ほど2年前ぐらいにはスケジュールが決まるので，それほど前なら宿泊場所は確保できると思う。
- ・旭川の開催状況と比べても，函館の需要はまだまだあると思う。ただ現在は，施設が老朽化していたり会場が足りないなどの問題点があり敬遠されている。箱物の論議はあるが費用対効果は十分ある。
- ・市民会館にしろ，体育館にしろ使い勝手が悪くなってきている。
- ・立地条件として，大会は大きくなるとバス移動するので，交通渋滞を招ねかぬよう郊外でもいいから大型駐車場を設置すると良い。全国的に見ても結構郊外にできて，広大な駐車場を持っている。

二本柳委員

- ・箱物は収支を考えると建設が難しくなるが，経済波及効果は計り知れない。
- ・先日，観光振興大会で倉敷に行ってきたが，函館は観光地として是非行ってみたいところであるようだ。だが残念ながらそれにふさわしい器がない。
- ・大きなホールで，多目的に使えるところが1つは必要だと思う。是非建設して欲しいので，この声を盛り上げて欲しい。

番匠座長

- ・今の学会は形態が変わってきた。以前は勉強するだけだったが、今は家族の観光ツアーも企画されている。それを考えれば波及効果は相当なものだ。

鎌鹿委員

- ・スペース的（敷地を含む）にはどれぐらいのものが必要か？

番匠座長

- ・各地の開催状況など、コンベンションに関する調査をしてみなければ何とも言えない。基礎的データを集める必要がある。

内村委員

- ・先ほどの倉敷の例を見ても、総会は2000人程度であるが、その他の部会が多く開催されるので、多目的に使用できるものが必要だ。

鎌鹿委員

- ・大型バス駐車場も確保するととなると、広大な敷地が必要となる。立地を考える場合に、街を変える要素があることを認識しておかなければならない。
- ・それらの波及効果も調べる必要があると思う。

丸藤委員

- ・例えば市民会館のところにホールを造るとすれば、体育館をどこかに移設しなければならない。市内の限られた敷地の中で、全体の配置を考えなければならないと思う。

二本柳委員

- ・旭川のアリーナも多目的ホールである。今は多目的に使えなければならぬ。コンベンションとして使わないときは市民がスポーツに使える施設であるとか、とにかく屋根の付いた箱が必要である。
- ・10年くらい前に青年会議所でコンベンションホールの研究をしたが、もう10年も前なので、もう一度調査してみる必要がある。

鎌鹿委員

- ・調査するときに、必要な広さだけを調べるのではなく、ミニマムやマックスや平均など数種を出してもらえると考えやすい。

番匠座長

- ・JTBなどで以前、コンベンションの開催に関して事務局的なサポートをしたと思うが、公表できるデータなどは持っていないだろうか。
- ・また、個々の大会事務局ではそれらを押さえているので、一つずつ調査すればだいぶ分かってくると思うが。

土田委員

- ・統計的な資料はない。コンベンション協会で開催状況などは押さえていると思うが。

星野部会長

- ・函館で開催されている状況だけでなく、全国的に学会の母数がどれくらいあるのか？など、全体で何がどのくらい、どのようにあるのかを調べる必要がある。

鎌鹿委員

- ・土田委員が先ほど郊外に立地したホールを紹介していたが、バスで何分ぐらいが許容範囲だと思うか？

土田委員

- ・函館であれば郊外であっても30分程度で移動可能であり、30分であれば全国的に見ても抵抗はないと思う。
- ・市内にあるというよりも、駐車場にバスが駐車できる方が優先されると思う。宿泊所に近いとか最寄り駅に近いとか、アクセスの充実が必要となる。

星野部会長

- ・以前に学会を世話したことがあるが、母体数の多い東京から考えたとき、朝2便に乗って会場に到着できるアクセスが喜ばれる。

二本柳委員

- ・郊外であればバスの輸送が必要になり大きめの敷地が必要となるが、街なかでは駐車場がなくても交通の利便性があればよい。そうすればホール+の敷地があればよい。これからは街の活性化ということも考えていかなければならないと思う。
- ・函館であればベイエリアだとか工場跡地だとかがあるように思う。「ホール=広大な敷地が必要」と言うことではないと思う。

第二部会報告（根本部会長）・・・資料2参照

討 議

【シティガイド検定】

星野部会長

- ・これを機に、函館の歴史とか文化とかをちゃんと勉強できるチャンスを、裾野を広くして作ることが大事だと思う。検定は最後の締めくくりだと思う。
- ・現在、函館市のちゃんとしたガイドは無いように思う。一般的なものは多くあるが、それから一步踏み込んだものはない。その情報を収集してテキストを作成するためには広い範囲の人がかかわる必要があると思う。

番匠座長

- ・本当に、表面的なことを紹介しているものは多いが、裏のものを紹介するものがない。検定制度を例えば3～1級として、3級は表面的なもの、2級は専門的なこと、1級は学術的なものにすれば、本だけ買って読む人もいると思う。

内村委員

- ・高齢者の対策として、講習会を受けるだけで認定を受けられるようなシステムがあっても良いと思う。高齢者が検定を受けることは難しいと思う。

根本部会長

- ・レベル3 2 1と設定することができれば今の話は解決できる。(3級は)講習会を受けると合格できるようなレベルにできると思う。
- ・第二部会でも検討したが、受かった人を登録させ、人材バンクみたいなものをつくって、後で活躍できるような仕組みができれば良いと思っている。人材バンクは全国に広がる可能性があるので上手く活用したいと思う。
- ・このように入口と出口の議論が必要になる。ただ受験させて合格させるだけではなく、ずっと勉強できるように、図書館などと連携して新情報を恒常的に与えるなどの組み立てをしなければいけないと思う。

番匠座長

- ・はじめから難しいことを考えると大変になる。まずは3級から初めてその後徐々に進行していけばいいと思う。

鎌鹿委員

- ・ペーパー上の検定ではなく、実際にガイディングをさせてみることも必要なので、その可能性を是非探って欲しい。
- ・人材バンクなどのネットワークを活かして、観光客に派遣できるような仕組み作りができればよいと思う。

二本柳委員

- ・以前に会議所青年部でシティガイドも随分と検討したが、やはり入口と出口をしっかり作らないと意味がないということで、とりあえずパコスマをやってみた。
- ・当初は、ロンドンタクシーを真似てドライバー検定を試みたのだが、格付けをすることに業界から反発され現在の形になった。
- ・シティ検定も最初から難しいものを作るのではなくて、入りやすいレベルから始めて、そのかわり出口もしっかり作った方がよい。

土田委員

- ・函館の魅力は、見ただけでは分からないところが多い。部会でも話したが、エキスパートにならなくても、エリアごとに資料を見ながら説明することができれば認定されるレベルにすると、良い出口になると思う。

【情報化関連】

鎌鹿委員

- ・ 駅や空港に、函館の最新の情報をしっかり管理して提供できるシステムが必要だと思う。

星野部会長

- ・ 入場料の話だが、函館の観光施設に全部入ったらいくらになるか？況や家族ずれだったらいくらになるだろうか？負担を考えると当然入りづらくなる。そういうことで、市内の施設で恐ろしく利用率が低いところがある。また、観光客の立場からすると、入っても（自分にとって）つまらないかも知れないと考えるとますます入りづらい。
- ・ こういうのを解消するため、共通券を見たことがある。2千円とか3千円とかするのだが、3、4施設観ると元が取れるようになっている。自分にとってつまらなければすぐ出ればいい。さらにそれにはアンケートがついていて、送ったら何か当たる仕組みになっている（かなりの確率で当選を出していると思う）。こういうことって大事だと思う。しっかり、スポンサーを付けてマネージメントできればすぐにでもできると思う。

内村委員

- ・ 長崎では100円電車で何処へでも行けて、入場料も無料となっている。そのかわり例えばグラバー邸に入ったらお茶でも飲んでもらえるよう、付加価値の部分で収入を得ようとしている。ワンコインで何処にでも行けるというのは良いと思う。
- ・ また、アンケートだが、今まさに東京の八重洲でやろうとしている。

阪口委員

- ・ 大阪か京都で市民は1日無料の日があったが、無料とは言わなくても市民の人が観光施設に入りやすくすればよいと思う。市民は案外に施設には入っていないように思う。

土田委員

- ・まさにそのことが部会で話し合われたが、先ほどの検定に合格した人は、どの観光施設に入っても無料にするとかの得点を付けるといいと思う。
- ・夜景でも、毎回案内すると結構大変になる。観光施設の入場料が安くなれば随分と利用者が増えると思う。

内村委員

- ・今年協会70周年で、イギリス領事館を無料にしたところ非常に好評だった。まあ、減免については、維持費もかかり市からも補助をいただいているので難しい部分もあるが、今後いろいろ検討していきたい。

二本柳委員

- ・コンベンション協会だとそれができるが、民間の施設だとなかなか無料にはできない。
- ・函館は観る施設がこれだけ多いので、共通券やフリーパスなどは、函館の入口である空港や旅行会社で、例えば2千円で販売してくれると随分と利用者が増えると思う。

土田委員

- ・市電やバスで1日乗車券を販売しているが、修学旅行などではすでにパックに含まれていて、函館にはいると旅行会社から配付されるようになっている。お得感があるのが随分喜ばれていると思う。

星野部会長

- ・外国で経験したことだが、共通クーポンで色々行くのだが、取り分の問題があるので、各施設でちゃんとチェックしていた。

土田委員

- ・湯巡りとかもその発想で、浴衣や下駄で識別してカウントしている。その人数で事務局に申請して公平感を出している。それがマーケティングにもなっている。

番匠座長

- ・まだまだ意見が尽きないようですが、冒頭に話した、来年度の予算化をしてもらいたいものとしては、

コンベンションホール関連の調査費

シティガイド検定の教科書の作成の資料調査費

情報化の検討（共通券システムを含めて）

などと思います。

- ・まず中間のまとめとして、今日までの意見について事務局と相談し、ある程度まとめて意見書を作成して皆さんに提示したいと思うがよろしいか。
（了承）

鎌鹿委員

- ・話が外れるのだが、交通安全（タクシードライバー）のマナーをこの会議で検討することはできないだろうか？

事務局

- ・まず関係部局に申し入れることと、観光基本計画にも載っていることなので、機会をみて問題提起して行きたいと思う。

(4) 閉 会